

本 会 記 事

○研究委員会の報告

SC 研究委員会 (第4回)

(11月5日(木))、於日本電子工業振興協会会議室
「火力発電所の計算制御」につき佐野恵保氏(電力中研)から報告があり、つづいて、入力走査、開発時のシミュレーション、モニター、リアルタイム制御用コンパイラ、計算機導入の動機、メリットなどにつき討論された。出席者 11 名

(12月9日(水))、於日本電子工業振興協会会議室
「実時間処理プログラムの特徴」と題し、穂坂衛氏(東大宇宙研)より全国座席予約装置につき発表があり、ついで竹下亨氏(日本 IBM)より「IBM Tokyo Olympic Tele-Processing System」につき講演があった。講演後、質疑討論がおこなわれた。出席者 12 名

EDPS 研究会

11月例会(11月18日於電気試験所、出席者 12 名)
IBM 7040/44 モニターシステムについて
IBM 7090 と IBM 7040/44 の hardware の違い、ならびに IBM 7090 の使用経験により新しく作成された IBM 7040/44 のモニターの相違点とそれに含まれる各種の重要なルーチンの機能について説明された。(報告者 和田勉(日本 IBM))

12月例会(12月16日 於電気試験所 出席者 8 名)
小形モニターについて
現在の中小形計算機のオペレーションをみると、Job 間およびコンソール・デバッグ時における Computer time を減少させることが、いわゆるモニターの目的の一つであるが、たとえ記憶装置の容量が小さく、trap のない中小形計算機であっても、Job の間だけ働らくモニターにより一応その目的が達せられることにつき説明された。

(報告者 伊藤公一(東芝))

COBOL 研究会

(11月18日(水))於電気試験所 出席者 14 名)
(1) COBOL 基本語調査
東芝・NHK の標本 3 個についてソースプログラムで命令の書かれている頻度を調べた。MOVE, IF, GO, ADD の四つが共通してしかもたびぬけて多かった。また PERFORM, COMPUTE, SECTION など、プログラマによって著しく利用度の異なる語があ

るらしい。さらに作業を継続したうえで詳細は学会誌に発表する。(報告者 吉村鉄太郎(東芝)他)

(2) COBOL 意見調査の検討

大形機ユーザにたいし COBOL の利用に関する意見を聴取する。7ページのアンケートの原案を報告し、全員で検討した。(報告者 渡辺昭雄(富士通))
(12月16日(水))於電気試験所 出席者 12 名

(1) ページ条件の疑点など

リポートライタの書きかたを、出力印刷の例をあげて説明した。定義のあいまいな点について、Report Heading (Footing) の前後はページ条件でも、つづき条件でもない、Control Heading (Footing) 群の途中はページ条件である、Control Heading Final は Initiate 命令では出力されない、の3点を統一解釈した。(報告者 西村彦彦(電通))

(2) Naftaly: Compiling a COBOL Questionnaire DATAMATION 64-8 にでたコンパイラメーカーへの質問表である。文献紹介欄に報告する予定である。(報告者 吉村鉄太郎(東芝))

(3) 基本語調査

2,500 行の 1 プログラムを調べた。MOVE, IF, GO, COMPUTE が多い。ADD は少なかった。
(報告者 今井悟(IBM))

(4) 比較表

Data Division までの仕様比較表の原案を、辻雄介(日電)が清書して配布した。各自がそれぞれの機種について査読した。

前期までの COBOL 研究会

(a) COBOL 言語批判: プログラミング言語としてみたときの利点、欠点、仕様のあいまいな点について討論した。

(b) COBOL コンパイラの実例: IBM 7090, 7044, 7074, 1401 について翻訳技法、除外仕様、注意点を調べた。文法や正書法は概してゆるやかに解釈してソースプログラムを受け入れている。オブジェクトへの落としかたには、generative type と call type とが大別される。

(c) 使用経験: 東洋工業, NHK, 東芝などでの使用状況、能率、注意点を報告した。メーカーから提供されるプロセッサの版はかなりはやく更新され、翻訳速度や実行速度がそのたびによくなっている。実行速度の改善は generative type のオブジェクトによって実現されている。

(d) DETAB-X: 将来の拡張仕様とみられる決定

表を紹介した(情報処理 5, pp. 268~276).

(e) 文献紹介: Datamation, CACM などに発表された文献を紹介した(情報処理 3, p. 290, 5, p. 177 など).

(f) COBOL-61 仕様書の翻訳: これは「和訳 COBOL」として出版された(情報処理 3, p. 360).

(g) COBOL-61 Extended 仕様書の翻訳: これは完了し印刷可能な体裁にまでととのえられているが, 目下のところ出版のあてはない(情報処理 4, p. 240).

(h) COBOL Information Bulletin の翻訳: Compact COBOL 一覧表の翻訳を完了した. Mass Storage や Table Handling などの拡張仕様についても翻訳の予定である. これらは CODASYL 委員会の正式の文書であるので, f, g と同様なんらかの形で翻訳, 印刷, 公表することがのぞまれている(情報処理 5, p. 119).

(i) 各 COBOL 仕様の比較: 各機種における仕様の比較表を作る作業をはじめた.

(主査 関根智明)

関 西 支 部

○研究会の報告

数値解析研究会(11月度例会)

11月18日(水)午後4時から関西電子計算機センターにおいて開催した. 坂口英氏(京大)が「チェビシェフ級数による常微分方程式の解法(特に境界値問題への応用)」について報告した. 出席者 11 名

システムソルビング研究会(11月度例会)

11月18日(水)午後6時から関西電子計算機センターにおいて開催した. 渡辺重明氏(阪大)が「The Simulation of Human Thought」について報告した. 出席者 10 名

○研究会の会告

システムソルビング研究会

日時 昭和40年1月20日(水) 17.30~19.30

場所 関西電子計算機センター

議題 Heuristic Problem Solving

(報告者 香川一男(京大))

会 告

○研究委員会

SC 研究委員会

日時 昭和40年1月7日(木) 14.00~

場所 (社)日本電子興業振工協会会議室

議題 1. 貨車操車場の計算機制御 東 昭(鉄研)
2. 文献紹介

MT 研究委員会

日時 1月18日(月) 14.00~

場所 電気試験所

議題 機械翻訳の一つの試み 大槻説平(名大)
和文英訳の実験(II) 野崎昭弘(東大)
人工完全言語系について 中野道夫(電機大)
「機械翻訳とその関連の言語研究」要約
小笠原林樹(岩手大)

EDPS 研究会

日時 昭和40年2月10日(水) 10.00~12.00

場所 電気試験所

議題 1. MELCOM 1530 stored logic 計算機のプログラミングについて 中山俊英(三菱)
2. FONTAC モニター 辻ヶ堂信(富士通)
3. H-800 アドミラルモニター
青柳律夫(日電)

COBOL 研究会

日時 昭和40年2月10日(水) 14.00~17.00

場所 電気試験所

議題 1. COBOL の比較表(全員)
2. Data Div. 頻度調査(東芝, NHK, IBM)
3. リポートライター 西村恕彦(電試)

雑 報

ICC 論文募集

国際計数センタ(ICC)では, 本年10月ローマで「Economics of ADP」の標題のもとに, Measurement of Profitability in ADP, Investment analysis および Systems structure and performance from the economic point of view に関してシンポジウムを開きます. シンポジウム参加希望の方は, 同センタに(1)2月28日までに論文要旨(英仏いずれか)3通, (2)4月30日までにその全文を送ること. その採否は同プログラム委員会で決定することになっています. 詳細は本学会事務局に問い合わせれば, 募集要項の写しを送ります.